

■児童・生徒の学力の状況

○R8全国学力学習状況調査の結果では、調査教科の国語、算数の2教科で、全国平均を4～5ポイント上回っていることがわかった。
 ○国語では、根拠を基に説明する活動や条件や言語を指定してまとめて書く活動を日常的に取り入れていくことを改善策として取り組んでいく。
 ○算数を中心に、問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを友達に伝えたりする活動や基礎的なことを習得することに得意な子と苦手な子の差が大きくなってきたことが見えてきている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○問題解決型・探究型の授業において、ICT機器を活用するよう努める。GIGAスクール構想における指導を推進する。
 ○児童の習熟の程度に応じたクラス別単位での授業展開では、担任、少人数算数担当、学力向上専門員間の組織的な指導体制を更に強化させる。
 ○本時のめあての達成について、児童が自身の学習活動を客観的にみた振り返りを徹底して行う必要がある。
 ○教科書分析を行い、児童用教科書に指導内容等の書き込みを入れながら、基礎学力の向上を図る。
 ○調べ学習や作業に満足せず、概念の深い理解や思考判断まで到達できるよう、自己調整型学習を推進する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○読み解く力の育成を指導の重点とし、Input・Think・Outputを意識した学習活動と意図的計画的に設定する。
 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざし、児童一人一人の実態に応じた学習活動を展開し、児童が自己決定をしながら課題解決に取り組む場を設定する。
 ○板橋区授業スタンダードの徹底を図り、授業の導入で学習の目標（めあて・ねらい）を明確に示し、授業の終わりに子ども自身に学んだことを振り返る場を設ける。
 ○個別最適な学び・協働的な学びの実現に向け、特に一人1台のタブレット型端末、ICT機器を活用した学習活動を展開する。
 ○児童自らが目標や学習方法を調整する自己調整学習を推進し、主体的に学ぶ姿を引き出すことで、深い理解と思考を育み学力の着実な向上へと繋げる。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○児童が具体的にイメージがもてるように、「Outputなめあて」を板書で提示する。 ○自分の考えを深め、書く時間を確保する。 ○学習計画を立てて、自ら学習方法や表現方法を選んで学習を進めていく場の設定を工夫する。 ○ペアやグループによる協働的に学ぶ時間を確保する。 ○学習のまとめ、振り返りを必ず行う。	○児童が必要に応じていつでもタブレット型端末を活用できるように各学級における活用頻度を上げる。 ○タブレット型端末を活用し、文章、図、写真、発表資料など多様な方法で考えを表現し、互いに共有する活動を行う。意見交流を通して、考えを広げたり深めたりする力を育成する。	○各教科等の既習事項を生かしながら「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究型授業を行い、児童が主体的に取り組めるような学習過程を設定する。 ○大谷口小自己調整学習6年計画に基づき、学習計画を立てて、自ら表現方法を選択するなど、教師が教える授業から子供が学ぶ授業へ、指導観のモデルチェンジを進めていく。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○学びのエリア内で、中学校の学校紹介などを、オンラインで行うなどの活動を通して、連携を深める。 ○社会、生活、総合的な学習の時間などの教科を通し地域について学び、郷土愛を育成する。	○「縦割り班活動による異年齢交流」月1回の異年齢交流を、児童の社会性や人間関係形成能力を育成する重要な教育活動として位置付け、異なる学年の児童が継続的に関わることで、互いを思いやる心や責任感を育み、学校生活全体を支える豊かな人間性の育成につなげる。	○特別支援教育コーディネーター等による児童の観察、情報共有、保護者との協議などを通じて、支援が必要な児童へ適切な対応を行う。 ○「障害者差別解消法」の趣旨を十分に理解して家庭と連携し、専門家や専門機関とスムーズなサポート体制の確立を図るために活用する。